

二〇一九年二月一日(参加者二四名)

しだらくに過ぐす一と日や神の留守  
祈願絵馬からから鳴りて留守の宮  
雨晴れて綺羅を纏ひし冬菜畑  
境内に市のにぎはふ神の留守  
上賀茂や大樽並べ冬菜漬け  
萎れては日に立ち上がる冬菜かな  
峡の里寸土寸土に冬菜畑  
一汁となす到来の冬菜かな  
色濃きが自慢や夫の冬菜畑  
菰卷の松に電飾神の留守  
泉水の鯉身じろがぬ神の留守  
杜の木々風にざわめく神の留守  
留守宮の風に撃ち合ふ恋の絵馬  
狛犬の阿吽でまもる神の留守  
扁額の龍の眼にらむ神の留守

みづき  
はく子  
せいじ  
もとこ  
みづき  
よう子  
はく子  
わかば  
うつき  
なつき  
ぼんこ  
うつき  
満天  
よし子  
よし子

留守宮を守りて大楠仁王立つ  
神の留守なれど参道一穢なし  
手作りの料金箱や冬菜売  
虫喰いの屑散らかりし冬菜市  
神の留守なれど手術の無事祈る  
神の留守一燈ともるご本殿  
神鶏と猫睨みあふ神の留守  
缶蹴りの子ら留守宮の広前に  
御手洗の竜口しずる神の留守

はく子  
こすもす  
かかし  
たか子  
明日香  
菜々  
なつき  
素秀  
董雨

WEB句会みのる選・二〇一九年二月一日